

横浜市歴史博物館・横浜開港資料館 連携企画展

明治150年記念企画展
「戊辰の横浜」



今年は「戊辰」の年、慶応4年/明治元年(1868)から150周年にあたります。
これまで、横浜とその周辺は戊辰戦争とはあまり関係がないと一般に考えられてきました。
しかし、歴史資料からは、意外にも横浜と戊辰戦争とのさまざまなつながりが見えてきます。
横浜市歴史博物館と横浜開港資料館が連携して、「戊辰」の年の横浜の実態に迫ります！

■横浜市歴史博物館 会場

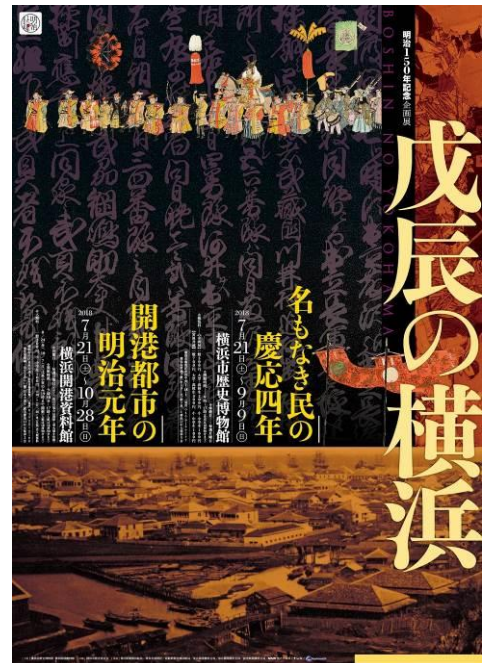
企画展「戊辰の横浜 名もなき民の慶応四年」

開催期間 平成30年7月21日(土)～9月9日(日)

■横浜開港資料館 会場

企画展「戊辰の横浜 開港都市の明治元年」

開催期間 平成30年7月21日(土)～10月28日(日)



主 催 横浜市歴史博物館/横浜開港資料館
共 催 横浜市教育委員会
後 援 朝日新聞横浜総局/神奈川新聞社/産経新聞社横浜総局/東京新聞横浜支局/
毎日新聞横浜支局/読売新聞横浜支局/NHK横浜放送局/t v k / F M ヨ コ ハ マ

横浜市歴史博物館 会場 「戊辰の横浜 名もなき民の慶応四年」



会 期：平成 30 年 7 月 21 日（土）～9 月 9 日（日）

開館時間：9 時～17 時（券売は 16 時 30 分まで）

休 館 日：月曜日

観 覧 料：一般 500 円、大学・高校生 200 円、中・小学生 100 円

*一般公開に先立ち開催前日の 7 月 20 日（金）16 時からマスコミ関係者向けに
内覧会を催します。ぜひお越しください。

【展示の概要】

本会場では、戊辰戦争時に横浜市域の村々や藩で何が起こったのか、その実態を探ります。

戊辰戦争の時、横浜市域では戦闘は起こりませんでした。しかし、市域とその周辺にのこる資料を調査することで、横浜の村々が、特に慶応 4 年（1868）の 3 月～5 月にかけて、新政府軍や旧幕府勢力とさまざまな関係を有していたことや、市域に陣屋を持つ唯一の藩・武州金沢藩の動きが明らかになってきました。これらの資料には、メディアに取り上げられるような著名人は登場しません。しかしその代わり、横浜市域ならではの特徴や、当時この地に生きた人々の息づかいを間近に感じることができます。地元に残された資料から明らかになる 150 年前の横浜の歴史を描き出します。

【展示のポイントとおもな資料】（総展示数 約 120 点）

★1 新政府軍、旧幕府勢力 双方と深い関わりがあった横浜市域の村々や人びとのリアルな姿を 地元の資料から明らかに！



① 「大総督東下之図」

（明治初年、藤沢市文書館寄託（堀内家文書））

藤沢宿の、当時数え 15 歳の少年が間近で見た新政府軍を描いた図で、新政府軍のいでたちを描いた貴重な資料。新政府軍の進軍は、沿道の村々の人・物資・資金が必須でした。新政府軍と横浜の村々の知られざる関係に迫ります。



② 「東叡山文珠楼焼討之図」

（月岡芳年画 明治 7 年（1874）当館蔵）

慶応 4 年 5 月の上野戦争（戊辰戦争の戦いの一つ）前、彰義隊をはじめとする旧幕府の諸隊が市域の村々にやってきて、献金などを要求しました。村では応じる一方、彰義隊を騙るニセモノは容赦なく攻撃しました。旧幕府勢力の動きと村側の対応を紹介します。

★2 横浜の「農兵隊」、市特有の歴史を岡山藩兵の日記から紹介！

「慶応四戊辰年官軍先鋒戦争日記備誌録」

（慶応 4 年（1868）、岡山県立図書館蔵）

幕末、横浜には代官が組織した 2 つの「農兵隊」がありました。彼らは代官から鉄砲をあたえられた村の自衛組織ですが、新政府軍の岡山藩によって鉄砲は回収されてしまいます。これは、市域とその周辺村々特有の歴史で、岡山藩と村々双方の資料に残されています。展示では、農兵隊の誕生や活動もあわせて紹介します。



【展示構成】 プロローグ 大政奉還の情報と村々／1 戊辰戦争前夜／2 新政府軍が横浜にやってきた／3 幕府代官編成の農兵—「綱島農兵隊」と「川崎農兵隊」／4 治安と支配—上野戦争前後／エピローグ 天皇東幸

横浜開港資料館 会場 「戊辰の横浜 開港都市の明治元年」



会 期：平成 30 年 7 月 21 日（土）～10 月 28 日（日）

開館時間：9 時 30 分～17 時

8 月 24 日（金）、10 月 7 日（日）は展示室のみ 19 時まで開館

* 入館は閉館の 30 分前まで

休 館 日：月曜日（祝日の場合は翌日休館）

入 館 料：一般 200 円、小中学生 100 円

【展示の概要】

慶応 4 年（1868）1 月、鳥羽・伏見の戦いで旧幕府軍は敗北。その後各地は戊辰戦争の戦雲に包まれ、日本は戦乱の一年を迎えます。3 月、東海道を進んできた薩長の兵士が横浜にあらわれます。しかし、外国軍が駐屯する開港場では戦闘は発生せず、4 月、横浜は新政府軍によって平和裡に接收されました。その後、戦火は奥羽に広がります。諸藩は横浜港でも武器を調達し、戦争で負傷した新政府軍の兵士は横浜の病院に送られました。横浜は戦場にこそなりませんでした。戊辰戦争と深い関係を持っていたのです。

本会場では開港都市横浜の激動の一年を、古写真・錦絵・古文書・イラストなど多様な歴史資料から紹介します。

【展示のポイントとおもな資料】（総展示数 約 100 点）

★1 横浜港では武器を輸入していました！



大童信太夫の日記「日程記」慶応 3 年（1867）個人蔵

戊辰戦争に参加した仙台藩のお留守居役の日記から、横浜港で外国商人との武器取引がおこなわれていたことがわかります。横浜港は武器輸入港として、戦争を支えていました。

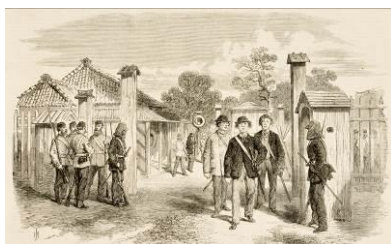
★2 「横浜病院」には戦争の前線から重傷の兵士が送られます！

関寛齋「奥羽出張病院日記」慶応 4 年（1868）陸別町関寛齋資料館蔵

北海道陸別町に残る戊辰戦争の「野戦病院日記」から、野毛にあった「横浜病院」の役割が見えてきました。



★3 横浜は外国人によって守られていました！



左：横浜の関門を守る外国兵「イラストレイテッド・ロンドン・ニュース」1868 年 8 月 1 日付 横浜開港資料館蔵



右：イギリス外交官アーネスト・サトウの所蔵していたアルバム 横浜開港資料館蔵

慶応 4 年 3 月から 4 月にかけて、横浜の開港場は外国の軍隊によって「共同管理」されます。外国軍隊と外交官が駐在する横浜は、「日本一安全」（商人の手紙の文言）だったのです。

【展示構成】

- 1 戊辰戦争の勃発
 - 2 薩長兵、横浜へ
 - 3 新政府軍の横浜接收
 - 4 武器輸入港・横浜
 - 5 横浜病院
 - 6 戦争の終結と天皇東幸
- トピック 戊辰前夜の情景／戊辰の肖像

各館展示関連イベント

■講演会

「戊辰戦争と横浜開港場」

9月2日(日) 14時～15時30分(13時30分受付開始)

講師：保谷徹氏(東京大学史料編纂所所長)

会場：横浜市歴史博物館講堂

参加費：500円 事前申込制(申込受付は歴史博物館8月22日必着)

■講座

① 8月5日(日)「江戸周辺の内乱と民衆」 宮間 純一 氏(中央大学准教授)

② 8月19日(日)「新政府軍と横浜の村々」 小林 紀子(横浜市歴史博物館学芸員)

③ 8月26日(日)「明治天皇の東幸と神奈川県域の人々」 椿田有希子氏(早稲田大学文学学術院
非常勤講師)

④ 9月15日(土)「戊辰戦争と三井」 村 和明 氏(東京大学准教授)

⑤ 10月6日(土)「戊辰の横浜 開港都市の明治元年」 吉崎 雅規(横浜開港資料館調査研究員)

⑥ 10月13日(土)「戊辰戦争期の海軍と港湾—横浜・横須賀・浦賀—」 神谷 大介 氏(東海大学
非常勤講師)

時間：14時～15時30分(13時30分受付開始)

会場：①～③横浜市歴史博物館講堂、④～⑥横浜開港資料館講堂

受講料：各回500円 定員：各回当日先着80名

* 講座・講演会の演題は変更になる場合があります。

■展示解説

【会場：横浜開港資料館】

8月24日(金) 18時～(夜間開館日)、9月22日(土) 14時～、10月20日(土) 14時～
いずれも30分程度、事前申込不要 入館のうえ、展示会場入口に集合

【会場：横浜市歴史博物館】

8月4日(土)、8月11日(土)、9月1日(土)、9月8日(土) 14時～ いずれも45分程度、
事前申込不要 各回30名程度当日先着順 企画展示室入口に集合

■横浜シティガイド協会主催 ウォーキングツアー 「戊辰の横浜を歩く」

第1回 9月5日(水) 「村々の幕末維新コース」ミニ講座講師：小林 紀子

第2回 9月28日(金) 「開港都市の1868年コース」ミニ講座講師：吉崎 雅規

時間：9時受付開始(横浜開港資料館講堂)、9時30分講義開始、13時解散

参加費：各500円(入館料・交通費は別途各自負担)

事前申込制 (申込・問い合わせは横浜シティガイド協会 TEL: 045-228-7678)

■展示関連印刷物

◎ 展覧会図録「戊辰の横浜」 A4判 112頁 販売価格：1,500円(税込)

お問い合わせ先

横浜市歴史博物館 副館長 井上 攻・担当学芸員 小林 紀子 TEL045-912-7777

横浜開港資料館 副館長 斉藤 司・担当調査研究員 吉崎 雅規 TEL045-201-2100

* 画像データをご要望の場合は、各館へご連絡ください。